教育実践研究　第29集（2019）235－240

［総合的な学習の時間］

汎用的能力の素地をつくるキャリア教育の在り方の考察

－自己理解とキャリアプランニングに焦点を当てた「わたしみらい」の実践から－

川村　孝樹*

1　研究の動機

文部科学省作成の「小学校キャリア教育の手引き」では,[3]「キャリア教育の必要性と意義」を次のように述べている。

> とどまることなく変化する社会の中で，子どもたちが希望をもって，自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくためには，変化を恐れず，変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠である。（中略）
> 今，子どもたちが「生きる力」を身に付け，社会の激しい変化に流されることなく，それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し，社会人として自立していくことができるようにする教育が強く求められている。

アメリカの研究者キャッシーデビットソンの未来予測[2]「2011年度に小学校に入学した子どもたちの65％は，大学卒業時に今は存在していない職業に就く」は有名な話であるが，AIの急激な発達が，社会全体の職業観やキャリア観に大きなパラダイムシフトをもたらそうとしていることは周知である。変化の激しい時代を生き抜くためには，知識や技術だけではなく，社会人として「自立する力」が求められるのである。新学習指導要領においても「生きる力」が，実社会で活用できる「汎用的能力」の意味合いをさらに強めた。

では，変化の激しい社会を生き抜くための「汎用的能力」とは，キャリア教育の視点からどうとらえるべきか。「小学校キャリア教育の手引き」では,[3]「基礎的・汎用的能力」として，「人間関係形成・社会形成能力」,「自己理解・自己管理能力」,「課題対応能力」,「キャリアプランニング能力」の４つを定義している。これら４つの資質・能力は，教科の時間や特別活動等，日常の教育活動全体で育まれなければならない。特に,[4]「自己の生き方を考える資質・能力の育成」を目標に掲げる総合的な学習の時間の果たす役割は大きく，総合的な学習の時間におけるキャリア教育の実践が小学校においてもますます精力的に行われている。その中でも，関[5]や，笠原[6]は，小学校６年生総合学習における職場体験を中核とした実践研究において，職業観・勤労観を育むことで汎用的能力に迫ろうとした。しかし，既存の職業にはない新たな価値が日々生み出される時代である。職業という枠に自分を当てはめることについてその有意性が問われる。

一方，デューイ[7]が「経験の連続性」と教育的環境設定について，未来を豊かに創造的に生きる上でよりよい経験を子どもが選択するためには，我々教師がまずもって子どもの「個人の内的要素」に目を向けることの重要性を述べている。自分の外側に絶対的な解を求めることができない現代社会であるからこそ，自分の内側に解を求める「経験主義」的な考え方の価値が見直されるべきである。また，宮園[8]は「内観」について，「内語による諸思考の，本人にのみ認められた客観的観察」とし，「内観」によって学習者の自己知が体系化することを述べている。いわゆる自己内対話とメタ認知とがセットになることで自己理解がより高まると解釈できる。

以上の社会的背景や，実践・学術研究を踏まえ，これからのキャリア教育を考えるとき，「自己の生き方を考える資質・能力の育成」を目指す総合的な学習の時間においては,「自己理解」と「キャリアプランニング能力」を重視すべきと考える。これからの社会において,「自立的に自分の未来を切り拓いて生きていく」ためのヒントは,「自分」の中にある。自分を知り，自分を見つめ，他者の生き方を自分に引き付けて考え，自分の考え方を再構成し，自分の未来をデザインする。変化の激しい社会を右往左往せずに生き抜くためには，自分を知ることや自分に貪欲に生きることで確立されていく揺るぎない「自分」をもつことが大切なのである。

中学校進学を前にして，自分の未来に目が行く時期である小学６年生の総合的な学習の時間において，これからのキャリア教育の目指す「自己理解」を深めることと,「キャリアプラニング能力」形成とを，同時的，かつ有機的に行う単元構成と思考ツールの在り方について，授業実践を基に明らかにしたいと考えた。

*新潟市立亀田西小学校

2　研究の目的

本研究は，自作思考ツール「わたしマップ」を中核とした総合的な学習の時間の授業構成や活動の手立てについて，「自己理解」の深化と「キャリアプランニング能力」の形成における有効性を検証する。

3　研究の内容と検証方法

本研究は，６学年児童30名に対して，平成30年１月に筆者が行った計18時間の総合的な学習の時間「わたしみらい」のうち，「わたしをデザインする」の内容にあたる計10時間の部分に焦点を当てる。検証方法については，子どもの発話，思考ツール「わたしマップ」等から，質的に分析を行う。授業実践での主な手立ては次の３つである。

(1)　21世紀型の新しい職業に携わる人を「みらいびと」と意味付け，直接，話を聞く機会を設定する。

子どもの探究的な学びを活性化させるためには，出会わせる対象が魅力的で，身近でなければならない。本実践では，地域で活躍している大人から実際に話を聞く機会を設定する。いずれの人物も，自分の好きや得意なことを生かし，自分らしさを大切にしながら働く「未来の働き方」を実践する人という意味で，「みらいびと」と名付け，魅力的な存在として価値付ける。

ゲストティーチャーとして招く地域（新潟市江南区）で活躍する「みらいびと」	
ハンドメイド作家	小熊　かおりさん
遊休農地レンタル業	重泉　篤志さん
WEBデザイナー	なるみ　ゆうこさん

(2)　自分を見つめたり自分の考えを再構成したりするために，「わたしマップ」の作成・更新する機会を設定する。

子どもが，主体的で継続的な活動を通して，「自分知」を高めていくためには，「楽しい」ことと「自分で簡単にできる」ことが大切である。そのために，本単元では，思考ツールとして「わたしマップ」を用いる。これは，上越市にあるNPO法人「しごとみらい」の竹内義晴氏が開発した[1)]ＴＣＭ（トライアングルコミュニケーションマップ）を基にしている。竹内氏は，「好き」「得意」「センス」「スキル」といったその人のもつ先天的・後天的な特性を，「強み」と定義付けている。本実践においても，「強み」という言葉を用いるとともに，「強み」を，すでに自分に備わっている，あるいは，これから芽吹こうとしている「汎用的能力」の素地として意味付けながら学習を進める。

「わたしマップ」づくりは，単元導入で作成手順を学習するが，最初のうちは，作成の意図や自己内対話の具体的な方法を，教師が時間をかけて丁寧に指導する。慣れてきたら，調べ学習や講話による「みらいびと」との出会いの機会ごとに，自力でマップを更新する活動に取り組ませる。「みらいびと」から見出した「強み」を自分に取り入れたとき，自分の人生設計がどう変わっていくか，マップでイメージを膨らませていく。つまり，「わたしマップ」を使って，自分の「強み」と他者の「強み」を行き来しながら，自分の考え方や生き方を再構成するのである。「自分見つめ」→「他者との出会い」→「自分見つめ」のサイクルで学習を進める。マップづくりの手順は以下の通りである。

①　まずは，「わたしの強みを見付け，人生をデザインしよう」と投げかけ，スタートする。中心に「わたし」を置き，下方に，自分の好きなことについて段階的に要素分解していく。要素分解のコツは「例えば？」「頭に思い浮かぶ場面は？」などと問いかけたり，「４Ｗ１Ｈ（whyを抜かした）」で考えたりする。（図１）

②　次に，トライアングルの裾の方に「好きな要素」がある程度並んだら，その「好きな要素」に共通していることは何かを考える。その共通点を，自分の「強み」と仮定して，中心の「わたし」の上に「強み」を並べ，今度はトライアングルの上方に向かって組み立てを行う。テーマは「自分の夢の実現に向けてやるべきこと」である。実現に向けて，「強み」を具体的にどう生かすのかシミュレーションする。組み立ての場面では，「それを生かすとどうなる？」という「if 思考」で展開させていく。（図２）

③　そして，トライアングルの頂点に，自分の夢を実現させたときの具体像を書き入れてマップづくりは完成する。しかし，仕上げに重要なことがある。それは，完成したもの，あるいは，できたところまでをじっくりと眺めることである。俯瞰することでよりメタ認知が高まる。（図３）

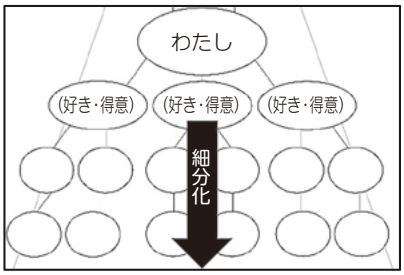

図１：①「好き」の要素分解

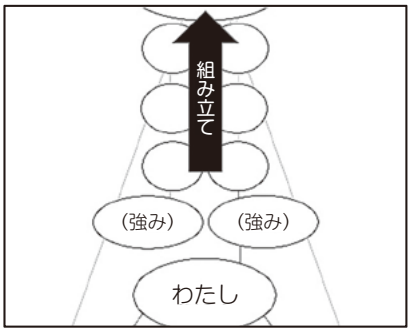

図２：②「強み」を展開

(3)　友だちと考えを共有したり，かかわりによって学びを深めたりするために，「かかわりシール」を視点として活用する。

自分らしさは他者とのかかわりの中で形成されていくと考える。本実践においても，個の学びが，友だちとの対話や集団の共有や検討場面によって，より深まったり，見方が広がったりすることを大切にする。そこで，「わたしマップ」を友だちと見せ合う活動の場を設定し，考えの共有や深化のための共通言語として「かかわりシール」を用いる。ペアやグループで「わたしマップ」にシールを貼りながら意見交換したり，貼られたシールを基に全体で考えの共有や検討をしたりする。竹内氏の「ＴＣＭマップ」は，あくまで学習者個人のものであるが，「わたしマップ」は，そこに学習者同士のインタラクションシステムがあるという点で異なる。

「かかわりシール」によってシールの種類と視点，ねらう効果は次の通りである。（表１）

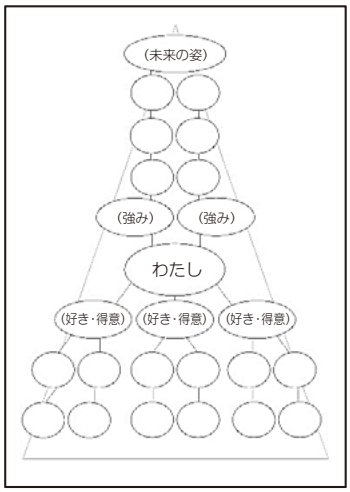

図３：③マップ完成イメージ

表１：かかわりシールの種類や視点等

シール		視　点	効果の例
	わかる	共　感	友だちと自分との共通点を洗い出したり，共感した理由を考えたりすることで自己理解につなげる。
	君らしい	自　覚（を促す）	相手から意味付けてもらうことにより，自分のよさとして自覚し，自信と探究意欲を高める。
	もっと	励まし	相手から促されて，さらに自分を掘り起こそうとしたり，他の「強み」との関連性を見出したりする。
	なぜ	追　究	相手から疑問を投げかけられ，自分を見つめ直したり，別の角度から多面的に考えたりする。

4　活動の実際と考察

(1)　「みらいびと」の「強み」を見付ける子ども

３人の「みらいびと」との出会いの中で，最も子どもたちに影響を与えたのが重泉篤史さんである。重泉さんは，江南区で「遊休農地レンタル」業務を行う会社「ベジ畑」の社長である。高齢化が進む現代，全国の農地の約半分が「耕作放棄地」，いわゆる「遊休農地」となっている。そこに目を付けて，遊休農地を家庭菜園として分譲してレンタルすることを思い付き，大好きだった塾の講師を辞めて，「誰もが幸せになれる仕事」として，2016年に起業した。元々，塾の先生ということもあり，ユーモアを交えた話し方で，子どもたちは，その魅力的な人柄に引き込まれていった。特に印象深かった話として，「畑仕事をしているときに怒っている人はいない」「今の悩みはやりたいことがありすぎて時間の使い方が難しい」「何でもいいから一番になれることを見付ける」などが，子どもの振り返りの言葉に見られた。講話が終わってからも，重泉さんの所に集まって質問をする子どもの様子からも，「自分らしさ」や「自分の好き」を大切にしながら働くことのよさが子どもに深く伝わっていることを確認することができた。（写真１）

写真１：重泉さんと子どもたち

次の時間，子どもたちは，重泉さんの「強み」について考える活動を行った。講話のメモを基に，重泉さんの言葉から印象的なものを一人一人が付箋に書き出していき，グループで集まり，整理・分類を行った。（写真２）その後，各グループで話し合われたことをクラス全体で共有し，特徴的なものはどれか，共通するものは何か，全体で話し合いながら，更に収束させていった。その結果，クラスのまとめとして，「みらいびと」重泉さんの「強み」を次のように意味付けた。

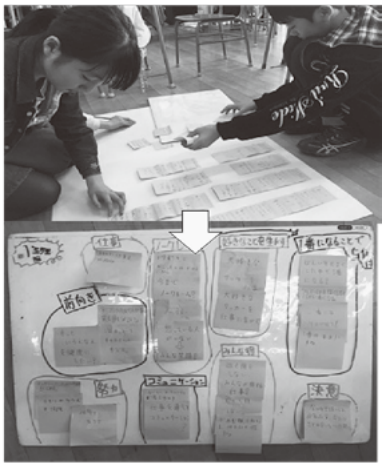

写真２：「強み」の整理・分類

・失敗がスタート　・アンテナ力　・夢を信じる力　・ナンバー１はオンリー１
・人との距離を縮める力　・創意工夫　・みんなの幸せを考える力

(2)　「わたしマップ」づくりで自分の「強み」を見付ける子ども

みらいびとから話を聞く活動と並行して，子どもは，自分自身の「強み」を見付ける活動「わたしマップ」づくりを重ねていった。自分を表現することが苦手なA男（仮称）は，自分の好きなこととして「プラモデル作り」と書いたまま，先に進めずに悩んでいた。そこで，教師がA男と対話をしながら，「好き」の要素分解をしていった。（写真３）

番号	話者	発話内容
	教師	・どうしてプラモ作るの好きなの？
01	A男	・作るのが楽しいから
	教師	・プラモ作ってるときの自分ってどんな感じ？
02	A男	・集中している
	教師	・プラモたくさん作るとどうなるのかな？
03	A男	・早く作れるようになる
	教師	・どうして？
04	A男	・経験があるから
	教師	・経験があると？
05	A男	・作り方がすぐに分かる

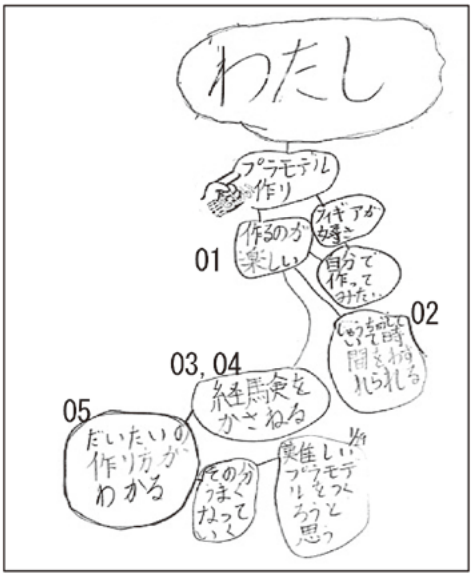

写真３：A男の初期のマップ

マップづくりの要領を得たA男は，その後，好きなこととして「鉄棒」と「ゲーム」をマップに加え，自力で好きの要素分解を続けていった。初回から数えて４回目のA男のマップが写真４である。「わたし」から下方へと好きの要素分解をした後，A男は好きの要素の共通点から，「物作り」と「力仕事」という自分の「強み」を抽出することができた。そして今度は，自分の強みである「物作り」「力仕事」を上方へと展開させていくが，注目したいのが，「物作り」の左上に書かれた「分析力」である。その上に「組み立て方が分かる」，さらにその横には「形の見とおしがつく」と書かれている。しかも，単線ではなく複数の項目と関連付けているのが分かる。「分析力」という新たな強みによってA男の「キャリアプランニング」がより体系化されていったと考えられる。

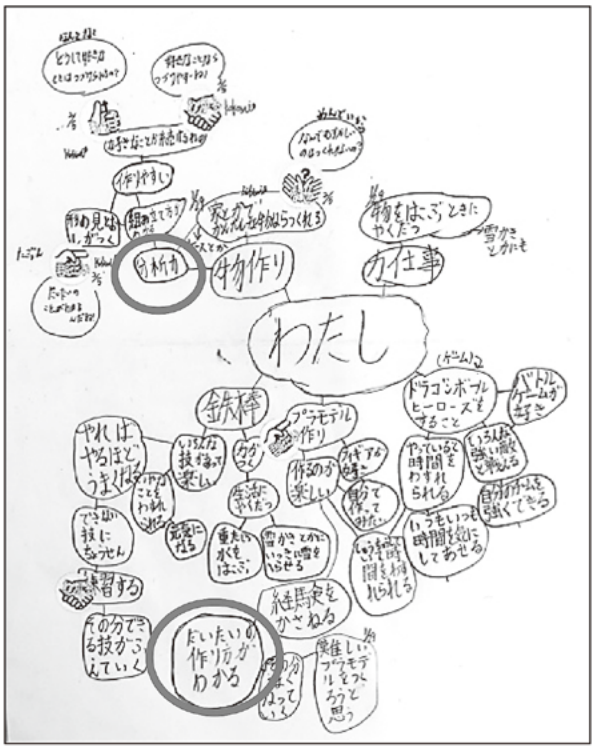

写真４：A男の後期のマップ

では，この「分析力」が書かれた背景には何があるのか。それは，このマップづくりの前の時間に，３人目の「みらいびと」であるWEBデザイナーのなるみゆうこさんとの出会いが関係している。講話後，クラス全体で意味付けたなるみさんの「強み」の中に「分析力」があった。A男は，自分の中の要素である「だいたいの作り方が分かる」を「分析力」と意味付けし直した。好きの要素分解では，「経験を重ねる」→「だいたい作り方が分かる」であったのが，強みの展開においては，「分析力」の導入によって，「組み立て方が分かる」から，「形の見とおしがつく」という更なる自分のスキルアップイメージが促進されたと考える。

このように，「わたしマップ」と「みらいびと」との活動がリンクし合うことで，みらいびとの「強み」から自分の「キャリアプランニング」のヒントを得たり，自分をより深く掘り起こすきっかけをもらったりしながら，子どもは自分らしさについての考えを再構成していった。

みらいびと重泉さんの強み「みんなの幸せを考える力」を自分に取り入れたB子（仮称）のわたしマップからもそのことが分かる。（写真５）「みんなの幸せを考える力」をきっかけに，「こまっている人の役に立てる」「いったん同じ気持ちになってみる」「どうすれば笑顔になれるか考える」などの新たな枝が生まれイメージの広がりを見せている。全５回のマップづくりを通して，B子がマップの最後に描いた自分の未来像は「病気の人全員が笑顔になれる薬をつくって，世界にみとめられ，こまっている人が世界にいなくなる」である。B子の元々なりたい職業は薬剤師であった。職業は違っても，自己実現しながら社会貢献をしている重泉さんの職業観・キャリア観にふれたB子は自分の目指す薬剤師像をさらに確かにすることができたのだと考える。

(3) 他者によって自分らしさを更新する子ども

毎回の「わたしマップ」づくりにおいて，ペアで「かかわりシール」を貼る時間を設定した。相手に共感するところは「わかる」，相手らしさが伝わるところは「君らしい」，相手に更に深く考えさせたいところは「もっと」，相手に他の面から見直してほしいところは「なぜ」を貼るというルールである。この「わたしをデザインする」活動全体を通して自分の考えを確かにしたり新たな発見をしたりしながら友だちとの交流を楽しむ姿や，貼られたかかわりシールがきっかけで更にマップづくりに意欲を燃やす姿などシールによって個の学びを活性化させる子どもの姿が多く見られた。

写真５：Ｂ子のマップ

さらに，集団の学びに「かかわりシール」を活用しようと考えた。３人の「みらいびと」から話を聞いてマップを更新した時点をひと区切りと考えて，互いのマップの「君らしい」と「わかる」シールが貼られた箇所について全体での意見交流を行うことにした。その意図は，「自分らしさは，他者とのかかわりの中で形成され，更新される」という価値の自覚を促すためである。子どもは，「友だちに『わかる』や『君らしい』シールを貼ったところとその理由」を視点に考えを交流していった。

番号	話者	発話内容
01	Ｃ男	・ぼくはＤ子さんの「かかわりを大切に」に，「わかる」シールを付けました。理由は，ぼくもあまり知らない相手と話をしたときに，その人から吸収できることをたくさん見付けることができたので，自分をよくするために大事なことだと思いました。
	教師	・「人から吸収する」という言葉があったんだけど，Ｄ子さんは，「みらいびと」から取り入れた「強み」って何かありましたか？
03	Ｄ子	・みらいびとの「人の出会いをかけ算にする」という「強み」をマップに入れました。
	教師	・そうか，その「強み」によって，Ｄ子さんとＣ男さんは共感してつながることができたんだね。他に「わかる」シールについて話をしてくれる人いますか？
04	Ｅ子	・私はＦ男さんの「好きなことは続けられる」に貼りました。好きなことは楽しいから続けられるんじゃないかと思いました。
	教師	・具体的にＥ子さんにはどんな経験があったの？
05	Ｅ子	・小さい頃から英語を習い始めて，最初はイヤイヤだったんですけど，だんだん楽しくなってきて，今も続けられているから，分かるなーって思いました。
	教師	・「わかる」シールを貼ったことで，相手のこともちろん理解するんだけど，Ｃ男さんやＥ子さんのように，また自分自身のことをさらに理解するきっかけになっているってことが分かるね。

このやりとりから，「わかる」シールを貼った子どもは，友だちに共感した理由を考えることで自分の経験を思い起こしながら，自分自身への理解を深めていることが分かる。次に，「君らしい」シールへと話し合いの視点を向けさせた。

番号	話者	発話内容
	教師	・今度は，「君らしい」シールについて貼った所を教えてくれますか？
06	Ｇ男	・ぼくはＨ子さんの「責任感」という所に，「君らしい」シールを貼りました。なぜなら，前からＨ子さんは係の仕事をよく頑張っていて，日頃から責任感が強いと思ったからです。
	教師	・Ｈ子さんのそういう場面をよく隣で見ているんだね。Ｈ子さんどう？Ｇ男さんにこう言われて。
07	Ｈ子	・うーん…，何か，日頃からやってるお手伝いとかは，三日坊主って思われたくないからずっと続けてるって感じで，責任感はあんまないかなって思ってたけど…。だけど，人に言われて，あるんだなって思いました。
	教師	・なるほどね，ちょっと意外だったってことだよね。Ｈ子さんみたいに，自分が「君らしい」シールを貼られて意外だなって思った人，他にもいる？
08	Ｉ子	・「今まで誰もやったことがないことをする」ってところです。Ｊ男くんに貼られました。
	教師	・うん，貼ったＪ男くん，どんな場面からそう思ったの？
09	Ｊ男	・なんか，場面は分かんないけど，普段から，独創性っていうかー，Ｉ子さんは自分ってものをちゃんともってるような気がする。
	教師	・あー分かる分かる！Ｉ子さん，人と同じはイヤ？
10	Ｉ子	・うーん，自分だけができることを見付けたいとは，いつも思ってるかなー。

07のように，「君らしい」シールを貼られた本人の思いを語らせることにより，他者から見えている「自分」と，自分が思っている「自分」とは異なることを子どもに自覚させることができたと考える。また，10は，自分では「意外」と感じつつも，他者から意味付けられることにより，自分らしさの「新たな芽」として自覚が促された姿と捉える。

最後に，「君らしい」シールを貼られて「意外に思わなかった」子どもに発言を促した。

番号	話者	発話内容
11	L男	・M子さんに「つかれていても明日がんばろう」という所に貼られました。
	教師	・貼られたけど自分では意外じゃなかったんだね。どうして？
12	L男	・えーと，何か，塾の帰りが7時くらいになると，宿題がまだ終わってなくても，明日の朝早く起きて頑張ればいいかなって思うことがよくあるから。
	教師	・前向きだね。そんなL男くんの前向きなエネルギーって，M子さん，隣にいて感じる？（M子が大きく頷くのを見て）ビンビン伝わるみたいだね。L男くんは何の「強み」からそこにつながっていったの？
13	L男	・「夢を信じる力」です。
	複数	・たしかに
		・L男らしいわ
	教師	・今，「らしい」って言葉がいろんな所から聞こえたね。「夢を信じる力」という「強み」から，L男くんの前向きさが，さらに強くなっていったんじゃないかな。

クラスメイトから，明るくて元気な人として評判のL男である。自信をもって「意外じゃない」に手を挙げた姿から，「夢を信じる力」という強みをもらったみらいびとの重泉さんや，普段から自分の「前向きさ」を評価している友だちや教師など，他者との出会いやかかわりによって，自分らしさをより確かにしたのだと考える。

子どもたちの話し合いを黒板に分類しながら記録し，最後には，「みらいびととの出会いやかかわりシールによって，自分はどうなっていくのか」という学習課題に対するクラス全体の納得解として，「自分がさらによく分かる」「新しい自分に気付く」「自分を確かにする」とまとめた。（写真６）

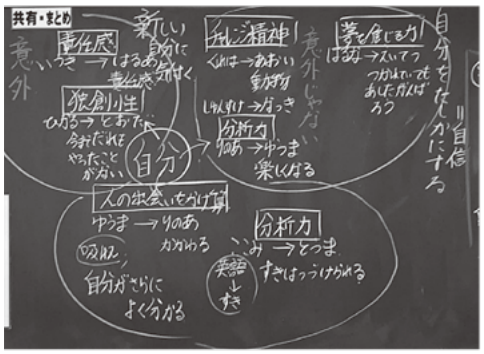

写真６：まとめの板書

5　成果と課題

「わたしマップ」づくりで自分の「好き」の要素を掘り起こし，そこから自分の「強み」を見付ける。その「強み」を展開させ，自分の目指す未来像を明らかにした。さらには，「みらいびと」から見付けた「強み」を自分の「わたしマップ」に取り入れ，自分の未来設計を更に豊かにした。講話３回とマップづくり５回を通して，マップの枝を広げたりつなげたりする子どもや，友だちに自分のことを語る子どもの姿から，本研究でねらった「自己理解」の深化と「キャリアプランニング能力」の形成において，自己再構成と講話の機会をリンクさせた本実践は有効だったと結論付ける。

本実践で子どもが作成した30通りの人生デザイン「わたしマップ」は，担任がラミネートして卒業式に子ども全員にプレゼントした。そして，「人生デザインには完成はないよ」と言葉を添えて，子どもたちを小学校の門から見送った。

子どもたちが中学校へ入学して２カ月が経ったある日，１通の手紙が届いた。B子からである。（４－《２》を参照）

> クラスのみんなは元気に新しいことにチャレンジしています。どんなに大変でつらいときも，あのクラスの一員なんだから，「負けてはいけない」，「あきらめない」と思いながら，学校生活を送っています。
>
> 私は将来，薬剤師になるのが夢だったけど，この前テレビで貧しい国の人が，自分のお母さんを病院に連れて行きたくても行けない。どんな病気かもよく分からなくて困っている様子を見ました。私は，“何とかしてあげたくても，自分じゃ何もしてあげられない”というふうに感じて，とてもショックでした。
>
> だから，将来，薬剤師もいいけど，医師や看護師も，とてもいい職業だな！と思い始めています。　（B子）

B子の手紙が，本実践の有効性をさらに後押ししてくれた。「自己理解」と「キャリアプランニング」の場を経験したことによって，B子は今もなお，よりよい自分を求めて自分らしさを更新し続けているのである。自分を知り，自分を見つめ，自分の未来を自らの手で切り拓いていく子どもの育成を目指して，「わたしマップ」の精度向上や新たな自己再構成の場の開発，出会わせる人の精選等，実践の質の向上と汎用化が今後の課題である。

【引用・参考文献】

１）竹内義晴『じぶん設計図で人生を思うままにデザインする』，秀話システム，2014年
２）田村学「総合的な学習の時間フォーラム資料　学習指導要領改訂の方向」，2015年
３）文部科学省『小学校キャリア教育の手引き　改訂版』，教育出版，2011年，9pp，21-23pp
４）文部科学省『小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編』，東洋館出版，2017年，8pp
５）関和則「未来を見つめ，夢をもち努力する子どもを育成するキャリア教育の在り方」，教育実践研究第18集，上越教育大学学校教育実践研究センター，2008年
６）笠原祐樹「小学校高学年におけるキャリア発達を目指した総合的な学習の時間の単元開発」，教育実践研究第26集，上越教育大学学校教育実践研究センター，2016年
７）ジョン・デューイ著・市村尚久訳『経験と教育』，講談社，2004年
８）宮園健吾「内語と自己知」，科学哲学（学会誌），日本科学哲学会，2011年